

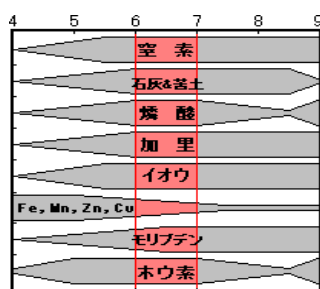
# pHバランスA液剤

pHバランスA液剤は、すでに植栽されているアルカリ基盤土壌の表層を中和改良することで劣化した樹勢の回復を促すための資材です。

## ● 樹勢劣化や枯損の多くは、アルカリ土壌が原因

多くの建設現場ではセメント固化剤による地盤安定化処理が行われています。このため、基盤はセメントの影響で強アルカリ性になっています。このような基盤に客土をしたとしても、下層からのアルカリ成分の浸透で客土層もアルカリ性を呈するようになってしまいます。このようなアルカリ土壌では、いくら施肥しても植物が利用することができません。

### アルカリ土壌の障害性



左図：土壌 pH と肥料成分の不溶化を示したものです  
 ・pH7.5~8.8 の範囲でりん酸、ホウ素が不溶化します  
 ・pH7~7.5 以上になると鉄、マンガン、亜鉛、銅といった微量成分が不溶化します

その結果、栄養障害から樹勢が衰えてしまいます。→



写真右：客土が pH8.2 までアルカリ性になった結果、鉄、ホウ素、マンガンなどの欠乏症を呈したさつき。放置すると枝葉の密度が低下し、病虫害の発生や枯死の原因になってしまいます。

## ● pHバランスA液剤散布による樹勢回復

### pHバランスA液剤散布

pHバランスA液剤を散布すると、地表 3~5cm の pH が中和されます。下図は埋立地での実施例ですが、pH8.5 の表層土が pH6.7~7.3 程度まで中和矯正されます。

不溶化していた養分が溶け出し植物に利用されるため、短期間で樹勢が回復します。高木であっても、栄養根は地表に多く分布しているため高い効果が得られます。

下層にセメント処理基盤がある場合、この影響で徐々にリバウンドし pH が上昇する傾向があります。従って、pHバランスA液剤を年間 1~2 回を目安に、数年間継続して散布することをお勧めします。

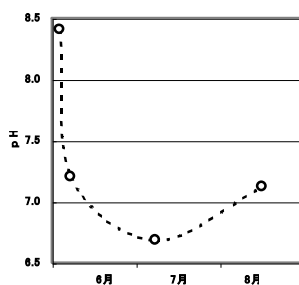


pH8~8.5 の植栽基盤に植栽されたマテバシイ。葉色がやや黄変し、鉄などの微量元素欠乏症とりん酸不足による生長不良がみられました。



pHバランスA液剤散布 2 ヶ月後の状態。葉色に遜色はなく、葉の密度が高まり明らかに樹勢が回復しています。

### pHバランスA液剤散布区



### 散布方法 20倍に希釈し 1~2ℓ/mを散布します



PHバランスA液剤は20%のキュービテナー入りです。原液は強酸性です。希釈作業付近を養生してください。



なるべく地表に散布してください。動噴を使用する場合は、ノズルを外し霧状にならないように注意してください。



地被植物、芝生地にもそのまま散布できます。散布後に葉面についた pH バランスA液剤を、真水で軽く洗い流してください。

## 使用上の注意事項

- ・ pHバランスA液剤は強酸性液剤です。目に入らぬよう保護メガネを着用し作業してください。
- ・ 残液の処分は、廃酸として専門処理業者に依頼してください。水域や排水溝への直接投棄はできません。
- ・ 強風下での作業は控えてください。散布にあたって、霧状に液剤が拡散しないようノズルの調整を行ってください。